

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

選択・記述・論述

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

選択形式の問題数が大幅に減少した。

論述形式の問題数が1問(80字)から4問(10字, 30字, 30字, 30字)に増加した。

その他トピックス

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[I]	選択 記述	種子発芽 フィトクロム	生物		やや易
[II]	記述 論述	遺伝子発現	生物	問2(3) 変異株を増殖させるためには、最少培地からグルコースを除いた上で、ラクトースを追加する必要がある。	標準
[III]	記述	視覚・進化 遺伝	生物	問1 ウ ~ オ は、与えられた文章と図1の系統樹をもとに考える。	やや難
[IV]	選択 記述	発生・系統	生物	問6 扁形動物は肛門をもたないことに注意する。	標準
[V]	選択 論述	植生の遷移	生物基礎	問1(2), 問2(2), 問3は論述字数が少なく、解答しづらい。	標準

※ 難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・知識問題が多く出題されるので、基本的な問題で取りこぼさないようにすることが重要であり、全分野を通して、教科書を中心とした学習による基礎力の養成と標準的な問題演習が不可欠である。
- ・論述問題と考察問題で点数に差がつくので、論述答案作成の練習を行うとともに、問題演習を通じて考察問題に対応できる力を養っておく必要がある。